

健食から医薬、医薬から食品 挑戦続けるアピ、中期戦略



▲野々垣孝彦社長

2022年8月期は、50期という節目の年でもあるのでグループビジョンとして「未来を見据えて〈せかい〉を創る」を掲げた。未来とは、中期経営計画で目指している「グループ売上高500億円、経常利益率10%以上」であり、現在取り組む機能性食品原料が事業の柱の一つとなる未来でもある。

当社は、養蜂業に始まり蜂産品原料の卸販売、受託製造、健康食品の受託製造、医薬品受託製造と時代が変化する中で新しい事業に挑戦してきた。医薬品事業ではジェネリック医薬品、ワクチン製造も行っている。

当社は挑戦し続けてきた企業だが、機能性表示食品（API's SR）やAPI's CFではお客様がより機能的な商品を求めている。ヘルスクレームも1つだけではなくダブル、トリプルのヘルスクレームが必要でそうした依頼にも対応できる。コロナ禍における社会変化、消費の変化では、美容業界が健康食品の販売に力を入れるようになった。インバウンド需要の喪失という意味では食品よりも美容業界の痛手も大きかったのかもしれない。その中では当社が提案する「リトルPET」「ブロー」を評価いただいているが、これらも従来のサプリメントとは異なり、環境保全の取り組みの一つだ。

これから始まる新たな挑戦は、健康を基軸とした食品向けの機能性原料の製造販売。これを第三の矢にしたい。これまで「安心安全で美味しく」が求められてきた食品は、「安心安全、美味しく、

健康に」に変わり、健康要素の付加価値をつけて差別化する必要性が出てきている。国も健康長寿社会の実現を達成するために予病、未病といった取り組みを推奨してきた。

提案する機能性食品原料は、酵素による加水分解、発酵、培養、乳酸菌など当社がこれまで蓄積してきた技術を活用したものだ。加水分解プラントでは、オーツ麦、ひよこ豆などを当社独自の技術で加水分解処理した。加水分解処理で水への親和性が上がる、風味が向上する等の加工適性の向上や物性の改良・美味しさの実現につながり、食品ロスへの解決にも寄与できる。これまで健康食品でも医薬品でも健康に寄与する取り組みを行ってきたが、今後は一般食品でも寄与していきたい。

健康食品、医薬品の受託製造がメインの当社が食品の機能性食品原料に取り組むのは、経営理念に人々の健康に寄与することを掲げてきたので、当然の帰結でもある。同時に企業の責任として取り組む環境、省エネに関しては、医薬工場、健食工場ともに換気が厳しく制限されるため改善が難しいが、電気を含めたエネルギー原単位を5年間平均で前年比1%以上削減してきた。

今後も守るべきものを守りながら、変えるべきものは勇気を持って変えていく。社会変化には柔軟に対応し社内環境の整備を図っていきたい。今年度では新人事制度の導入や障害者雇用推進室を設置した。「ものづくり」で健康に寄与することに加え、地域社会にも貢献できる企業としてさらに成長していきたい。